

## 山東省農村部における「低炭素都市」

2010.11.10

香港 花木

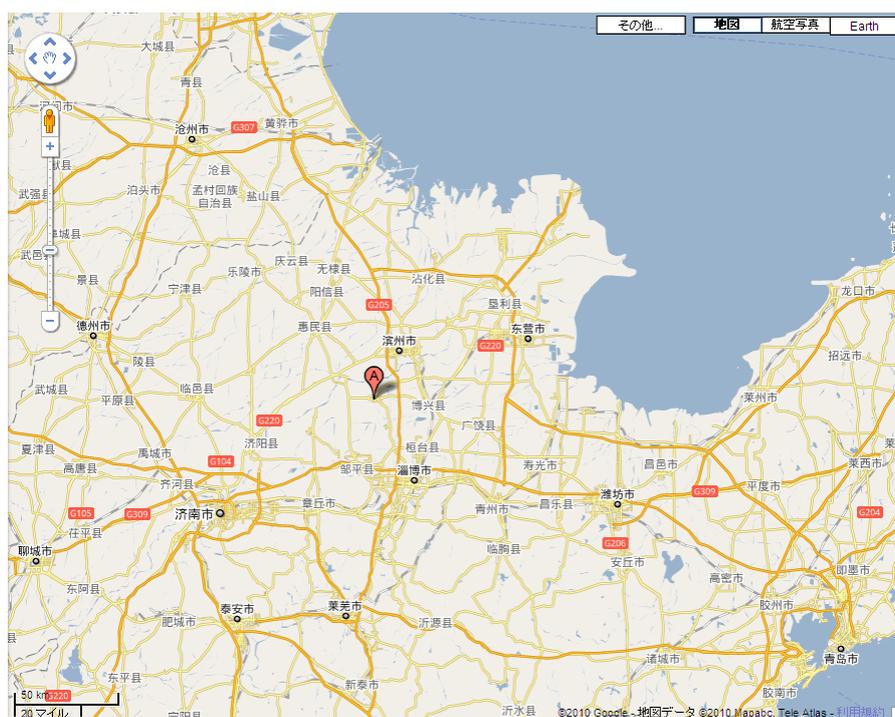
10月、山東省し博市（zibo市）郊外の高青県を訪問し、同地の工業団地を案内していただいた。山東省は中国でも屈指の大きな省であるが、産業面では農業が主体となっており、高青県でもこれまではとうもろこしや綿花等を主に栽培してきたという。しかしながら最近では中国経済の発展に伴ってこうした農村部においても工業誘致に力を入れており、県が大規模な工業団地を開発し企業誘致に力を入れている。

高青県の工業誘致の特徴は同地が「低炭素」産業に力を入れていることにある。最近、中国ではこの「低炭素」という言葉がキーワードになっており、例えば企業誘致等の際にもターゲット分野として語られることが多くなっているが、高青のような田舎における「低炭素」とはいったいどのようなものなのか興味を持って訪問してみた。

※：高青県は商務部から「低炭素モデル都市」の指定を受けているとのこと。

### 1. 高青県の位置

高青県は山東省の省都「済南」から東に向かい高速道路で約1時間行った場所にある。「太公望」が建国し、有名な「管仲」が宰相を務めた桓公の時代には春秋五覇の1つに数えられるほどの強国となった「斉」の首都し博市の北郊にあるが、高速道路を降りても見渡す限りのとうもろこし・綿花畑と道路沿いの並木以外目に入るものはない。



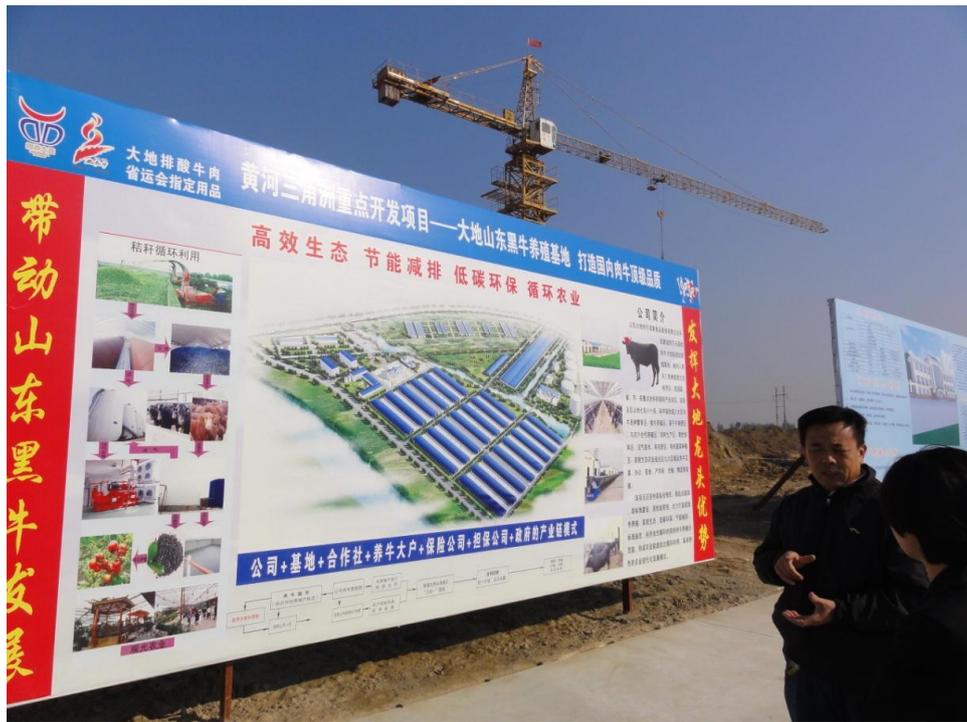


↑ 刈り入れの済んだトウモロコシ畑。地平線まで何もない風景が却って新鮮だ。

## 2. 低炭素農業

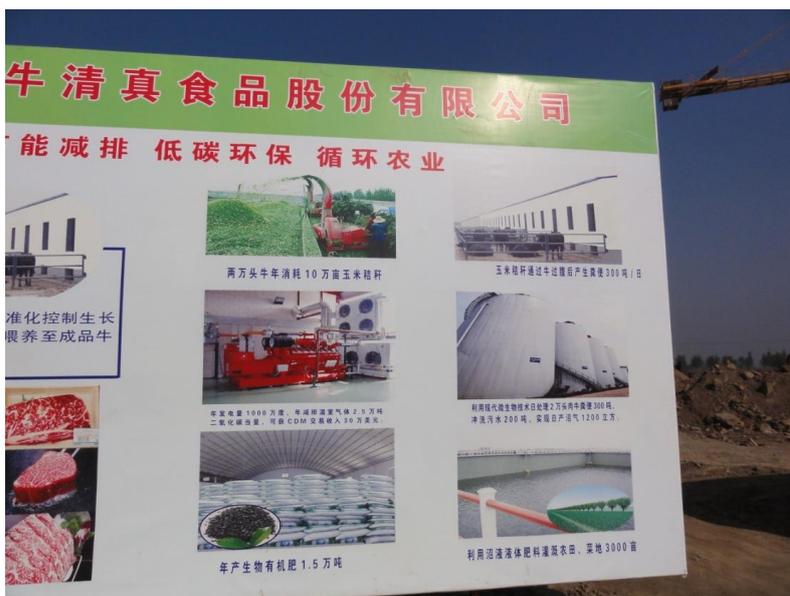
高青県では済南から1時間という地の利を生かして工業誘致にも力を入れているが、現状では進出している産業は紡績業や陶器業等の軽工業がもっぱらとなっている。そこで更なる工業誘致を目指して「低炭素」をキーワードとし、それに該当するプロジェクトには思い切った優遇策を講じることとしたそうである。また、高青県の県長が商務部に働きかけて同県を「低炭素モデル都市」に指定してもらい、知名度の向上を図ろうとしている。しかし現状では報道等でのカバーもほとんどなくあまり知名度は上がっていないようである。

実際に低炭素産業の実例として案内してもらったのが同地に新しくできた農場であった。同農場はもともと村の共同屠殺場であったものを改装して牛舎とし、その中で400～500頭の牛を飼っている。牛の種類は当地でもともと飼われていた黄牛を日本の黒毛和牛と交配させたもので、種となる精液は青島大学から入手したということであった。（説明者自身その詳細については知らないとのこと。）生育には28カ月を要するため手元資金繰りが厳しいが、最近ではシンガポール等からのファンドによる投資もあり状況が改善されつつあるとのことであった。資金繰りさえ克服すれば安全・安心かつおいしい和牛？肉に対する需要は非常に拡大しており、農業については企業所得税もかからずまた土地使用権料も極めて低く抑えられていることもあり、ビジネスとしては非常に利幅が大きくなっているという説明であった。



↑ 農場の説明看板。説明してくれた主任は以前は学校の先生をしていたそうである。

具体的に同農場における牛の飼育がどのように低炭素なのか聞いてみたが、例えば牛のフンから出るメタンガスをためてそれを暖房等の燃料に利用したり、メタンガスを取り出した後の牛フンを堆肥等に利用するという点が低炭素につながるという説明であった。今回感じたのは「低炭素」というのが地元政府の優遇措置を受ける条件として提示されている場合でも、何が「低炭素」に当たるか等については非常に弾力的な解釈がなされているようだということである。



← 低炭素の説明看板。主な内容はメタンガスの利用であるが、使用されている機器は特に特徴のあるものではない。



← 牧場で日光浴をする山東黒牛たち。日本の和牛と言われても素人目には区別がつかない。

生産された牛肉は山東省だけでなく中国の主な大都市に出荷されており、その価格は1 kg当たり 1,000～1,400 元と一般の牛肉の約 30 倍に相当する高値となっているとのことであった。牛肉は「山東黒牛」というブランドで、大規模スーパーや料理店への直接販売ルートを構築しているが、それでも安全・安心かつおいしい牛肉には強いニーズがあり、現状は需要に十分こたえられておらず、飼育規模の拡大を準備中とのことであった。

ブランド構築については、この牛は当初「高青小黑牛」というブランドで売り出したものの、中国人でも「高青」と言われてもどこのことか全くわからず認知されなため売れ行きが芳しくなく、「山東黒牛」に改めたところよく売れるようになったそうである。中国の食肉消費量は既に一人当たり年間 50 kgを超える水準と、日本（約 40 kg）を上回っており、食べ方としては火鍋（しゃぶしゃぶに相当）が多いようである。

また、安全・安心の内容について具体的に問うてみたが、牛の耳にしるしをつけ1頭ごとに記録をつけていること、よく日光浴をさせ運動させること等という説明であり、特に飼料等は他と変わらず、また、消費者へのトレーサビリティ等情報提供面でも特別のことは行っていないとのことであった。



↑ 中国における最も一般的な牛肉の食べ方「火鍋」。日本のしゃぶしゃぶとほぼ同じである。

今回の訪問を通じて、中国における「低炭素」という言葉がいかにブームになっているか、また、一方でその低炭素の解釈についてはかなり自由に解釈されており、ある意味地域振興の一つの掛け声となっている事例もあるということを紹介させていただきたい。

なお、高青県では、きれいな空気とのんびりした農村の雰囲気売り物に、最近ではエコツーリズムにも力を入れ始めたということであった。皆様も機会があれば一度こうした中国の農村で休日をご過ごしてみてもいかがだろうか？

(以上)